

中尾 優子 論文内容の要旨

主 論 文

Initiation of breastfeeding within 120 minutes after birth is associated with breastfeeding at four months among Japanese women: a self-administered questionnaire survey

日本女性における出産後 120 分以内の初回授乳は
4 か月までの母乳栄養と関連する：自記式質問紙調査より

中尾優子、門司和彦、本田純久、大石和代

(International Breastfeeding Journal 3:1, 2008)

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科新興感染症病態制御学系専攻
(主任指導教員 門司 和彦教授) (青柳 潔教授)

緒 言

日本における母乳栄養の割合は 1970 年代より低い状態が続いている。2001 年に実施された 21 世紀出生時縦断調査の結果、出産後 6 ヶ月間における授乳方法が母乳のみであった割合が 21%、混合栄養（母乳の他に人工乳を加えて、乳児の栄養を行う）72%、人工栄養 6%であった。また、2005 年に厚生労働省が実施した乳幼児栄養調査では生後 3 か月時の母乳栄養割合は 38%、混合栄養は 41%、人工栄養は 21%であった。WHO は 1998 年、「母乳育児成功のための 10 か条のエビデンス」の中で Step 4「分娩後 30 分以内の授乳の開始の援助」について関連した研究の要約を行った。その中で、出産後の児の観察研究から初回吸啜まで 30 分以上を要することが指摘されている。さらに帝王切開は Step 4 の実践において有意に障害となっていた。

母乳栄養は、母親にとっては子宮の復古を促進し出血を抑えることや母乳を生成するのに脂肪が消費されるためダイエット効果があること、児にとっては正常な腸内細菌層が早期に形成され下痢の防止と免疫機能に役立つこと、乳首の吸啜で歯その他発音器官の発達を促進することなど多くの利点がある。したがって、出産後の母乳栄養割合を増すために、初回授乳のタイミングについて検討することは重要である。本研究の目的は初回授乳までの時間と、入院中、1 か月時、4 か月時の母乳栄養割合との関連を明らかにすることである。

対象と方法

N市で2003年9-12月に4か月健康診査を受ける予定の児の母親391名に質問紙を郵送した。質問紙の内容は1)初回授乳までの時間、2)病院・施設に入院中、1か月時、4か月時の授乳方法、3)母児の属性、4)分娩の特徴、5)出産後のケア内容である。初回授乳までの時間を分娩後30分以内、31分から120分、121分から24時間、24時間以降の4つに区分し、入院中、1か月時、4か月時の母乳栄養割合を比較した。名義尺度データに関してはカイ2乗検定を用い、順序尺度データにはコクラン・アーミテージ検定を用いて解析を行った。また、多重ロジスティック回帰分析を用い、4か月時の母乳栄養に影響する因子を分析した。

結 果

318人の母親の36%が30分以内に授乳を開始し、57%が120分以内に授乳を開始していた。出産後120分までに初回授乳を行った母親では入院中($P=0.006$)、1か月時($P=0.004$)、4か月時($P=0.003$)での母乳栄養割合が有意に高かった。初回授乳までの時間30分以内と31分から120分では、母乳栄養割合に有意な差はみられなかった。また、帝王切開($P<0.001$)、早産($P<0.001$)、分娩中の500ml以上の出血($P<0.001$)では、早期授乳の割合が有意に低かった。ロジスティック回帰分析の結果、初回授乳までの時間が120分以内の母親では121分以上の母親に比べ、母乳栄養継続の割合が有意に高かった(オッズ比2.5、 $P=0.01$)のに対し、初回授乳までの時間が30分以内の母親と31分以上の母親では、母乳栄養の割合に有意な違いはみられなかった(オッズ比1.8、 $P=0.06$)。

考 察

本研究より120分以内に初回授乳を行った母親は入院中、1か月時、4か月時での母乳栄養割合は高かったが、初回授乳までの時間30分以内と31分から120分での母乳栄養割合に有意な差はなかった。さらに、4か月時の母乳栄養に影響する因子は初回授乳までの時間が120分以内の母親では121分以上の母親に比べ、母乳栄養継続の割合が有意に高かったが、初回授乳までの時間が30分以内の母親では31分以上の母親に比べ有意な差はなかったことが明らかとなった。先行研究より、児の力で母乳を吸啜するまでには49分あるいは55分必要であること、出生後の児の生理ではカテコールアミンが120分以内に急速に分泌され、この時期は新生児覚醒時期であることが報告されている。母乳栄養継続の割合を高めるためには早期の授乳援助を試みるのが重要であるが、その時期は十分な早期接触を含めた120分までの拡張が推奨されるであろう。

結論

初回授乳が出産後120分以内であった母親では、4か月までの母乳栄養割合が有意に高かった。早期授乳、特に120分以内の授乳援助は、母児の健康を促進する上で奨められる。